

○徳島県東部において露地すだちは中山間を代表するブランド品目だが、7月から9月の間に年間作業時間の半分以上が集中していることから、高齢化が進む生産者にとって真夏の長時間労働は、産地の縮小につながる大きな問題となっている。

○そこで、徳島農業支援センターでは、低コストで実現できる点滴灌水設備と雑草対策でカバークロープとして利用されるヒメイワダレソウの草生栽培を導入。**手灌水の6分の1の時間で作業が完了**し、作業時間の削減が図られた。

### 具体的な成果

#### 1 点滴灌水設備による作業時間の削減

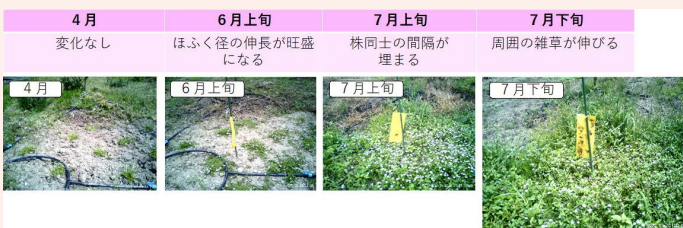
点滴灌水設備により、灌水の際の重いホースを引っ張る作業が削減されたこと等により、**手灌水の6分の1の時間で作業が完了**するようになった。

令和2年度の夏は特に高温乾燥が顕著だったため、生産者からは好評で、計72.5aの圃場で導入された。



#### 2 ヒメイワダレソウによる抑草効果

ヒメイワダレソウが茂る部分では草丈が低く抑えられたことから、樹園地の地表を、ヒメイワダレソウで覆うことで夏場の除草作業の手間が省けることが示唆された。



### 普及指導員の活動

#### ○作業時間の調査

夏場の作業時間の実態把握のために、生産者へ聞き取りを実施。

#### ○先進地視察による実現性の調査

点滴灌水について、当該技術が導入されている先進地視察を実施。

#### ○モデル園地の設置

点滴灌水の導入圃場に、生産者、町、JA、普及で設置作業を実施。関係機関内で設置のノウハウを共有。



#### ○ヒメイワダレソウの草生栽培

すだち園へモデル園を設置。定点カメラでヒメイワダレソウの生育状況や抑草効果を調査し、調査結果を講習会等で生産者へ周知。今後モデル園の面積を拡大し、作業時間削減の調査を実施予定。

### 普及指導員だからできたこと

○他地域とのネットワークを持つ普及指導員だからこそ、先進地視察等、課題解決に向け迅速かつ効果的な活動ができた。

○生産者、町、JA等の関係機関と連携（コーディネート）しながら、地域と一体となった取組を進めることができた。

## 持続可能なすだち産地の育成

活動期間：平成31年度～継続中

### 1. 取組の背景

すだちは、徳島県東部の中山間を代表するブランド品目である。一般的な作型である露地すだちは、暑さが厳しい7月から9月の間に年間作業時間の半分以上が集中しており、高齢化が進む生産者にとって、真夏の長時間労働は身体の負担が大きく、生産者や栽培面積の減少につながる大きな問題となっている。

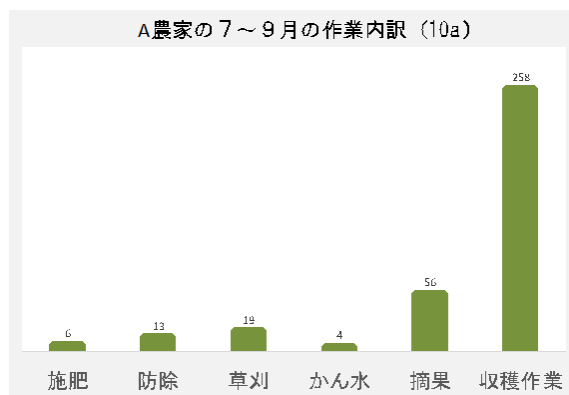
そこで、低コストで実現できる灌水と除草作業の省力化技術の導入に向けて普及指導を行い、最終的には他の省力化技術と組み合わせ、持続可能なすだち栽培への支援を行った。

### 2. 活動内容（詳細）

省力化技術として、灌水に点滴灌水設備、除草作業にヒメイワダレソウを用いた草生栽培をすだち産地へ導入する取組みを行った。

#### (1) 作業時間の調査

夏場の作業時間の実態把握のために、生産者へ聞き取りを行った。最も時間を要するのは収穫作業で、猛暑の中、他の作業も並行して行わなければならないことに負担を感じている生産者も多くいることが明らかとなった。また、生産者からは省力できる部分があればしていきたいとの意向も窺えた。



#### (2) 先進地視察による実現性の調査

点滴灌水について、設置したときのイメージを生産者に持ってもらうため、当該技術がすでに導入されている先進地視察を実施した。実際に現物を見て、意見交換をすることで、導入を検討・決定した生産者も現れた。



### (3) モデル園地の設置

#### ①点滴灌水設備

点滴灌水の導入を決めた生産者の圃場に、生産者、町、JA、農業支援センターで設置作業を実施した。設置作業を協力して行うことで、関係機関内で設置のノウハウを共有することができ、最初の1人が導入することで、周囲の生産者への波及につながった。

#### ②ヒメイワダレソウの草生栽培

すだち園へモデル園の設置し、モデル園には、ヒメイワダレソウを10株定植し、定点カメラで生育状況や抑草効果を調査を行った。調査結果は講習会等で生産者への周知に活用した。



### 3. 具体的な成果（詳細）


#### (1) 点滴灌水について

管内で7園地、計72.5aのすだち園地に点滴灌水を設置した。この点滴灌水設備の設置により、猛暑の中、重いホースを引っ張る重労働を削減することができた。

#### (2) ヒメイワダレソウの草生栽培について

繁茂時期は、図1のように6月からほふく茎の伸長が旺盛となり、約1か月後には地表が覆われた。このことから、定植するタイミングは6月上旬が適期で、定植前に予め雑草を取り除いておくと、ヒメイワダレソウの繁茂がより速くなると考えられる。

次に抑草効果は、7月上旬と下旬の写真（図1）を見比べると、ヒメイワダレソウが茂る中央部分では、草丈が低く抑えられていた。このことから樹園地の地表を、ヒメイワダレソウで覆うことで夏場の除草作業の手間を省けることが示唆された。

4月	6月上旬	7月上旬	7月下旬
変化なし	ほふく径の伸長が旺盛になる	株同士の間隔が埋まる	周囲の雑草が伸びる
			

(図1) ヒメイワダレソウの生育状況と抑草効果

### (3) 作業時間の削減について

点滴灌水設備により、手灌水の6分の1の時間で作業が完了するようになった。除草作業については、抑草効果が確認されたため、今後モデル園の面積を拡大し、作業時間の削減の調査を実施していく。

## 4. 農家等からの評価・コメント（生産者）

令和2年の夏は高温乾燥が特に顕著だったため、点滴灌水が役に立った。すだちは暑い中の作業が多いため、高齢者は長く続けることが難しく、若い人も就農しにくいのが現状。このような省力化技術を活用することで、すだち生産を続けていけたらと思う。

## 5. 普及指導員のコメント

**（徳島農業支援センター主任主事 新居里菜・主査兼係長 亀代美香）**

近年の夏場の高温化で、省力化技術はより需要がでてきているように感じており、すだち生産の維持のためには、夏の野外の高温下での労働（灌水、除草、防除、収穫）の省力化を更に進めていく必要があると思う。

生産者の要望に応えられるように、新たな技術の情報収集、そして提案ができるようにしたい。

## 6. 現状・今後の展開等

- ・液肥の点滴による施肥の省力化
- ・ヒメイワダレソウ供給圃場の整備、草生栽培の普及促進